

東京国立近代美術館 2026年展覧会スケジュール決定

東京国立近代美術館（東京・竹橋）では、2026年も多彩なラインナップの展覧会を開催します。企画展（1階企画展ギャラリー）では、近代の日本画から現代の美術や写真まで、幅広い時代とジャンルの展覧会を開催します。時代を先駆けた作家たちの画業を、新しい視点や最新の研究内容を盛り込んで紹介します。

所蔵作品展「MOMATコレクション」（2～4階所蔵品ギャラリー）では、2025年度新収蔵品、メダルド・ロッソ《Ecce Puer（この少年を見よ）》のお披露目をはじめ、重要文化財18点を含む14,000点に近い国内最大級のコレクションの中から、年4、5回の会期ごとに選りすぐりの約200点をご紹介します。変化に富んだ小特集を交えた多様な切り口で、近代以降の日本美術の流れを概観しながらいつでも名作に出会えます。

また、全館イベントとして毎年好評の「美術館の春まつり」を2026年も開催します。桜や春を描いた名画の特集展示を中心に、美術館周辺の桜と名画の競演をお楽しみください。

2026年も、当館の展覧会にご期待ください。



所蔵作品展
MOMATコレクション
(2025.11.5-2026.2.8) 展示

奈良美智《Harmless Kitty》1994年
© Yoshitomo Nara



所蔵作品展
MOMATコレクション
(2026.3.3-5.10) 展示

メダルド・ロッソ《Ecce Puer（この少年を見よ）》
1920-25年頃
撮影：大谷一郎

■企画展

「アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦」	2025年12月16日[火]～2026年2月8日[日]
「下村觀山展」	2026年3月17日[火]～5月10日[日]
「杉本博司 絶滅写真」	2026年6月16日[火]～9月13日[日]
「竹久夢二 時代を創る表現者」	2026年10月23日[金]～2027年1月11日[月]

■所蔵作品展：MOMATコレクション

所蔵作品展 MOMATコレクション (2025.11.5-2026.2.8)	2025年11月5日[水]～2026年2月8日[日]
所蔵作品展 MOMATコレクション (2026.3.3-5.10)	2026年3月3日[火]～5月10日[日]

※2026年5月以降の所蔵作品展情報は、順次当館ウェブサイトにてお知らせします。

■全館イベント

「美術館の春まつり」	2026年3月中旬～4月上旬（予定）
------------	--------------------

※2025年11月時点の予定のため、今後変更が生じる場合があります。

報道関連のお問合せ先

東京国立近代美術館 広報担当：細谷、小澤

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3丁目

Tel: 03-3214-2597 Fax: 03-3214-2577 E-mail: pr@momat.go.jp



【企画展】

「アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦」

■ 会期：2025年12月16日[火] – 2026年2月8日[日]

■ 主催：東京国立近代美術館、朝日新聞社

■ 展覧会概要：

新しい時代を象徴していた女性の美術家は、なぜ歴史から姿を消してしまったのか。

1950年代から60年代の日本の女性美術家による創作を「アンチ・アクション」というキーワードから見直します。当時、日本では短期間ながら女性美術家が前衛美術の領域で大きな注目を集めました。これを後押ししたのは、海外から流入した抽象芸術運動「アンフォルメル」と、それに応じる批評言説でした。しかし、次いで「アクション・ペインティング」という様式概念が導入されると、女性美術家たちは如実に批評対象から外されてゆきます。豪快さや力強さといった男性性と親密な「アクション」の概念に男性批評家たちが反応し、伝統的なジェンダー秩序の振り戻しが生じたのです。本展では『アンチ・アクション』(中嶋泉[本展学術協力者]著、2019年)のジェンダー研究の観点を足がかりに、草間彌生、田中敦子、福島秀子ら14名の作品およそ120点を紹介します。「アクション」の時代に別のかたちで応答した「彼女たち」の独自の挑戦の軌跡にご注目ください。



山崎つる子 《作品》 1964年
芦屋市立美術博物館蔵 ©Estate of Tsuruko Yamazaki courtesy of LADS Gallery, Osaka and Take Ninaqawa, Tokyo

「下村観山展」



《弱法師》1915(大正4)年 重要文化財
東京国立博物館蔵 Image: TNM Image Archives

■ 会期：2026年3月17日[火] – 2026年5月10日[日]

■ 主催：東京国立近代美術館、日本経済新聞社

■ 展覧会概要：

日本画家・下村観山(1873-1930)の、関東圏では13年ぶりとなる大規模な回顧展。

紀伊徳川家に代々仕える能楽師の家に生まれた日本画家・下村観山は、幼時より画の才能を發揮し、橋本雅邦に学んだのちに東京美術学校に第一期生として入学しました。卒業後は同校で教鞭を執るも校長の岡倉天心とともに同校を辞職、日本美術院の設立に参加し、岡倉の指導のもとで横山大観、菱

報道関連のお問合せ先

東京国立近代美術館 広報担当：細谷、小澤

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1

Tel: 03-3214-2597 Fax: 03-3214-2577 E-mail: pr@momat.go.jp



田春草らと新時代にふさわしい日本美術の道を切り拓きました。

観山は古画の模写・模造事業への参加、1903年からの2か年にわたるイギリス留学・欧州巡遊などを通して自身の高い技術力に磨きをかけていきました。《木の間の秋》(1907年)、《小倉山》(1909年)には、その成果として、やまと絵や琳派の技法を十分に消化しつつ、西洋画由来の写実的な表現を融合させた跡がうかがえます。岡倉の没後は《弱法師》(1915年、重要文化財)のように、主題の着想やその表現に創意工夫をこらした作品も生み出されました。

本展では、観山の代表作により作家の画業を通観するとともに、最新の研究成果も盛り込みながら、日本の近代美術史における観山芸術の意義を改めて検証します。

「杉本博司 絶滅写真」

- 会期: 2026年6月16日[火] - 9月13日[日]
- 主催: 東京国立近代美術館、日本経済新聞社
- 展覧会概要:

様々な領域で活動する現代美術作家、杉本博司(1948-)。小田原文化財団 江之浦測候所をはじめ建築分野でも活躍し、日本の古典芸能など舞台芸術の演出では国内のみならずヨーロッパ数都市やニューヨークにも進出。その活動分野は書、陶芸、和歌、料理と多岐にわたっています。

そんな多才な杉本の芸術の原点は銀塩写真にあります。確たるコンセプトに基づく、独自の表現による作品はまた、銀塩写真の技術としても頂点を極めるものであり、写真がデジタルに置き換わった今、その技法はまさに「絶滅が危惧される」ものと言えます。

本展では杉本の初期(1970年代後半)から現在に至る銀塩写真約65点を展観します。写真作品で構成する美術館での個展は、2005年の森美術館以来の開催となります。さらに、所蔵作品ギャラリー3階にて当館所蔵杉本作品全点、また未公開資料「スギモトノート」*をサテライト展示します。

*「スギモトノート」:写真作品制作における、撮影時および暗室での作業工程の覚書を記したノート。

1970年代半ばより記録は始まります。



杉本博司 《相模湾、江之浦》 2025年
ゼラチン・シルバー・プリント 119.4 × 149.2 cm
© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi

「竹久夢二 時代を創る表現者」

- 会期: 2026年10月23日[金] - 2027年1月11日[月・祝]
- 主催: 東京国立近代美術館、毎日新聞社

報道関連のお問合せ先

東京国立近代美術館 広報担当: 細谷、小澤

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1

Tel: 03-3214-2597 Fax: 03-3214-2577 E-mail: pr@momat.go.jp



【所蔵作品展】

◇「所蔵作品展 MOMAT コレクション」(2025年11月5日[水]–2026年2月8日[日])

コレクションによる小企画 | 没後30年 榎倉康二

◇「所蔵作品展 MOMAT コレクション」(2026年3月3日[火]–5月10日[日])

新収蔵&特別公開 | メダルド・ロッソ《Ecce Puer (この少年を見よ)》

※2026年5月以降の所蔵作品展情報は、順次当館ウェブサイトにてお知らせします。

【イベント】

「美術館の春まつり」

■会期: 2025年3月中旬–4月上旬 (予定)

■主催: 東京国立近代美術館

■イベント概要:

毎年恒例、桜の時期のイベントです。

東京国立近代美術館は皇居や千鳥ヶ淵、北の丸公園といった桜の名所エリアに立地しており、散策で巡るにも絶好のロケーションにあります。所蔵作品展「MOMAT コレクション」では、桜、花にちなんだ春らしい作品を一室に集めて展示するほか、展示室ごとに設けたテーマの中から日本画、洋画、海外作品などを交えたさまざまな作品をご覧いただけます。



跡見玉枝《桜花図巻》部分 1934年

施設概要

館名	東京国立近代美術館
開館時間	10:00-17:00 (金曜・土曜は20:00まで) ※いずれも入館は閉館30分前まで
休館日	月曜日 (祝日または振替休日の場合は開館し、翌日休館)、展示替期間、年末年始
観覧料	所蔵作品展 一般 500円 (400円) 大学生 250円 (200円) 企画展 展覧会により異なる
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口より徒歩3分 東京メトロ・都営地下鉄「九段下駅」2番出口、「神保町駅」A1出口より各徒歩15分 東京駅より徒歩約20-25分
住所	〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
ウェブサイト	https://www.momat.go.jp
お問い合わせ先	050-5541-8600 (ハローダイヤル) ※こちらをご掲載ください

※休館日、観覧料等の最新情報は当館ウェブサイトにてご確認ください。

記事掲載や作品画像の使用に際しては、必ずご連絡ください。

報道関連のお問合せ先

東京国立近代美術館 広報担当: 細谷、小澤

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1

Tel: 03-3214-2597 Fax: 03-3214-2577 E-mail: pr@momat.go.jp

